義務教育の普及と世界市民

ロレイン・ミラー・奈良

<概要>

この論文は、バハイの聖典などを引用しながら、まず義務教育の普及の必要性を論じます。特に万国正義院の『世界平和への確証』が教育の普及を強調しています：「義務教育普及の大事業には、....世界の各国政府から最大の支持を受けるにふさわしいものであります。無教育は、議論の余地なく、国民の衰微と滅亡、および偏見の存続を許す原因であるからです。全ての市民が教育を受けなければ国は繁栄しません。」

また、バハイの教えによりますと、教育の主な目的の一つは、人類の和合を教えることです。こうした国際的な教育は、歴史的には新しい考えではありません。昔のイスラエル、インド、ペルシャ、唐、日本、ギリシャ、ローマなどで国際的な教育の例を見い出せます。しかし、その内容ははっきりしていなかったといってもいいでしょう。外国語の学習、地域研究、国際関係研究、多文化主義、国際交流・留学制度などが含まれていましたが、調和されていませんでした。１９８０年代に、やっと伝統的な学問分野の境を超え、世界を一つのものとして見る、いわゆる「グローバル教育」が実現されました。こうした教育は、ますます複雑になっている国内及び国際問題に取り組めるように、生徒を育成します。今までの教育では育てられていなかった技能を育成します。これこそ、バハイ信教の目指している、世界市民を育成する普遍的な教育でしょう。